

新海誠監督作品にみる
「デジタル時代の映像文学」を探る



『君の名は。』の大ヒットは、アニメーション監督・新海誠の名前を世界に広めました。新海監督のアニメーションは、そのストーリーだけでなく鮮烈な映像美、背景美術の美しさや光の使い方、音楽と映像の合わせ方の手法なども評価されています。新たな表現方法で新しい文学を完成させた作品の世界を説き明かします。

古典文法から日本語の変化を考えよう

多くの人が高校で平安時代を中心とした古典の文法を学んでいますが。最初に触れたときは平安時代と現代のことばは、全く別のようには思えるかもしれません。しかし、これらは確実につながっています。本講義では、平安時代と現代のことばのつながりを考え、日本語の変化について考えていきます。

人間の尊厳



人間の尊厳ということばは、残念ながら日本にはまだ十分に根づいているとは言えません。自国の過去—ナチスによる強制人体実験、障がい者の安楽死、ホロコースト—への反省から、移民を積極的に受け入れる国となったドイツの話や学びながら、人間の尊厳という考えが、どのような意味を持つか、これから日本のとりくむべき課題をお話します。

古代ギリシアの人間観

古典作品にはさまざまな人間理解が表現されており、現代の人間観を再考するための材料になります。本講義では、ソフォクレスの悲劇『オイディプス王』やプラトンの対話篇『饗宴』などの古代ギリシアの古典作品を読み解きながら、そこに見られる興味深い人間観について考えます。

スピリチュアリティと宗教

今日、日本人の多くが宗教に対して持つイメージはあまり良いものとは言えません。しかし、他方で、書店に行けば精神世界や霊性、ヒーリングやオカルトなどの書籍が山積みになっていますし、医療や看護、福祉や教育などの分野でもスピリチュアリティが注目されています。その背景について考察します。

日本人は「無宗教」か？

日本人の7割以上は、信仰している宗教がないと言われます。そのことから、日本人は「無宗教」であるという認識が広く共有されています。しかし、本当に私たちは「無宗教」なのでしょう？宗教の現代的意義と合わせて考えてみましょう。

仏像の見方、楽しみ方

関西地方には多くの優れた仏像があります。仏像は深い精神性と力強い生命感を宿し、多くの人々の魂に語りかけ、造形を通して仏教のメッセージを発信してきました。仏像の姿や服装、製作の特徴などを通じて、仏教美術の楽しみ方を紹介します。

日本近現代文学における戦中・戦後



明治時代以降の日本近現代文学は、激動の時代を経て形成されてきました。そのような時代を背景として近現代文学は、人類の負の遺産である戦争そのものや、戦後のさまざまな矛盾に満ちた社会を描いてきました。それらの文学作品を鑑賞し、平和の意味を考えます。

脳死はひとの死か



「脳死はどのようにして起こるか」をわかりやすく説明したうえで、脳死をひとの死とする意見と反対意見の、それぞれの根拠を説明します。考える楽しさを高校生に味わってもらい、科学と倫理の違い、生命や人間とは何かに思いをはせてもらえればと思います。

認知症患者との向き合い方



超高齢社会がますます進行する中、認知症患者の割合もまた増加し続けています。現代を生きる私たちにとって、認知症になっても生きやすい社会を作っていくことは重要な課題の一つでしょう。認知症患者に接するときの心のもちようについてお話します。

日本の近代と宗教

日本の近代は、宗教に対してさまざまな形で抑圧的に働いてきました。本講義では、福沢諭吉を取り上げて、日本近代の啓蒙的知識人の持つ宗教観がいかにして形成され、また一般化していったかを検証し、現代世界における宗教の意義について改めて考えます。

社会貢献する宗教



「無縁社会」と呼ばれることもある現代社会において、宗教者たちの間で自分たちに何ができるか模索する動きが広がっています。その動きの個々の事例を紹介しながら、改めて今日の日本社会における宗教の存在意義について考えてみましょう。

日本最古のマンガ 鳥獣戯画を読む

鳥獣戯画は、日本最古のマンガとして知られています。その魅力と謎に迫りながら、絵巻物の楽しみ方を紹介します。

文学部
総合人文学科
芸術学美術史専修

アートはなぜ必要か？

3年生

2020年、ドイツの文化大臣が「アーティストは私たちの生命維持に不可欠な存在だ」と述べ、コロナ禍で生活に困窮するアーティストに大規模な支援を行って大きな話題になりました。本講義では、古今東西の名作の数々を通してアートが人や社会に果たしてきた役割を振り返り、皆さんとこの言葉の意味を考えます。

文学部
総合人文学科
ヨーロッパ文化専修

マルティン・ルターとその時代

宗教改革者マルティン・ルターが関わった仲間や敵対者、さらにはルターゆかりの町を紹介しながら、キリスト教が分裂する激動の時代を考察します。また、16世紀当時、発明されて間もない活版印刷術がどのように利用されたかについても言及します。

半分英語・半分ドイツ語
－欽定英訳聖書を読む

2年生以上

約400年前、シェークスピアと同時代に書かれた欽定英訳聖書。語彙は英語ですが、文法は半分ドイツ語といってもいいくらいです。本講義ではドイツ語とはどのような言語かを感じてもらおうと同時に、現代英語との違いに、変貌する英語を感じてもらいます。

フランス演劇の楽しさ

現代の日本人にとって、フランス演劇とは、ほとんど馴染みのない文芸ジャンルです。しかし、フランスの悲劇も、喜劇も、古典劇も現代劇も、実は尽きせぬ魅力に満ちています。短時間でフランス演劇の全容を語ることはできないので、本講義では、いかにフランスのドラマというものが「奇妙なもの」であるか、「実験的なもの」であるかという点を中心に紹介します。

文学部
総合人文学科
日本史・文化遺産学専修

境界の民俗

私たちは、目には見えない意識の上で、境界を認識して暮らしています。昼と夜、一年の終わりと始まりなどの境界の時間や橋や辻などの境界の場所は、異界という私たちの住む所とは別の世界と深く関わりがあるようです。それらの事例を紹介します。

屏風絵から探る都市とくらし

江戸時代の都市では、人々はどのような住居に住み、どのような生業を営み、子供たちはどのような遊びをしていたのでしょうか。にぎわう港湾都市を描いた屏風絵を手がかりに、浮世絵、古文書、出土遺物などを関連させながら、その様子を読み解いていきます。

妖怪の歴史－天狗と内乱－

日本中世において、種々の日記、説話にみえる天狗の姿を通じて、人々が妖怪をどう作り上げていったかを検討します。また、当時の人々が世の中の変動(内乱)を、どう考え対処していったかをみていきます。

文学部
総合人文学科
世界史専修

ロシアの農奴制



歴史上有名なロシアの農奴制は、どのような制度だったのでしょか。ロシア社会の中で農奴がおかれた状況は、いかなるものだったのでしょか。農奴制が成立、強化されていく過程をロシアの歴史の流れの中で解説します。

『キングダム』と始皇帝

世界史

漫画や映画で有名になった『キングダム』。その主人公の一人は、秦の始皇帝です。本講義では、始皇帝の実際の姿、秦が中国をはじめて統一できた理由、またその秦がわずか15年で滅亡した原因などに視点をあて、始皇帝と秦の歴史を解き明かしていきます。

悠久の紫禁城－その栄光と黄昏－

世界史

ユネスコ世界遺産としても有名な紫禁城は、明・清両王朝500年の歴史を刻んだまま、今も中国の首都北京の中心にその威容を示しています。壮大にして秀麗なこの紫禁城で、皇帝たちはどのように暮らしていたのか、文献からわかることを写真も交えて詳しく解説します。また、紫禁城にまつわるさまざまなエピソードを紹介し、その栄光と衰亡の歴史を解説します。

スイス・アルプス観光の歴史

世界史



児童文学『ハイジ』の舞台であるスイス・アルプスは世界的に有名な観光地ですが、18世紀まで南北をつなぐ通り道に過ぎず、悪魔の棲む場所として恐れられていました。本講義では、アルプスが通過地点から旅行の目的地へと変貌していく歴史を解説します。

学部・学科

講義テーマ・講義概要・対象学年等

文学部／総合人文学科／地理学・地域環境学専修

自然と災害

地学または地理

自然の営みはあくまでも自然ですが、そこに人の暮らしがあるとたまたま災害になってしまいます。その話題についてお話しします。

災害と暮らし

地学または地理

災害を受ける所では、その時は大変ですが、長い目で見ると人の暮らしに役立つこともあります。その話題についてお話しします。

買い物弱者支援の地理学



買い物弱者はどのような人々なのか、そして、どのような地域に住んでいて、どのような状況下に置かれているのか、地理学的に解説します。特に、過疎地域など買い物先から離れている地域の高齢者について説明し、移動販売車など支援の可能性について解説します。

地域の中のコンビニ

コンビニは場所、地域によって売れるものが異なります。同じタイプの店舗でも地域によって果たす役割が異なるので、地理学的アプローチの研究が可能です。コンビニのビジネスモデルを説明するとともに、地域市場の中でのコンビニのあり方について解説します。

魔除け石の伝播を地理学的にみる

石敢當と呼ばれる魔除け石は中国発祥です。この石はアジア各地への伝播の過程で土地ごとに形態や意味が変化し受け入れられていきます。大学で学ぶ地理学的な視点を紹介しつつ、文化がいかに伝播・変化していくかを講義します。

文学部／総合人文学科／教育文化専修

図書館の仕事って何だ？（図書館情報学への招待）：「知」のサポーター「Librarian」



図書館は、「本」「情報」「サービス」を提供する社会的な機関です。本講義では、「図書館に関わる研究」＝「図書館情報学」を紹介しながら、図書館の社会的使命と、「知」のサポーターであるライブラリアン(司書)の意義について考えてみます。

文学部／総合人文学科／初等教育学専修

小学校における子どもの学び



小学校における授業に関わる事例を紹介しながら、子どもの学びを検討します。「教師が教えることと子どもが学んでいることとのずれ」に焦点をあてて考えていきます。

「わくわくファシリテーション」を体験しよう



さまざまな話し合いの場面でファシリテーション(facilitation)の考え方や技法を使うと、参加者が意見を言いやすくなるので、確かな成果が得られるようになります。本講義では「わくわくファシリテーション」を実際に体験し、学校生活での実践を目指します。

私たちは何を教育と呼んできたのか



本講義では思想的アプローチを体感します。「教育とは何か」と問うのではなく、「我々はどのような営みを『教育』と呼んできたのか」と問い、日常用語としての「教育」の多義性を明らかにします。これにより教育とは誰のため、何のための営みなのかを再考します。

文学部／総合人文学科／心理学専修

繊細な性格の心理学

10代はさまざまなことを気にする年代です。そして、気にしすぎる繊細な性格を、心理学では HSP といいます。本講義では「怒っている人が怖い」「友だちの顔色がうかがってしまう」「匂いや音などに敏感」などの繊細さと、対処法を考えていきましょう。

文学部／総合人文学科／映像文化専修

東日本大震災と映像メディア

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地震と津波、原発事故により未曾有の被害をもたらしました。他方でこの震災は、インターネットがすっかり社会に浸透し、スマートフォンの普及も進みつつあった時期に発生しており、メディアとの関わりにおいてもこれまでになかった特徴を持っています。本講義は、震災と映像メディアとの関わりについて考察し、その中で現代のメディア社会についての理解も深めることを目指します。

文学部
文化共生学専修
総合人文学科

クリスマス市とカーニバルに行く

世界史



ヨーロッパでのキリスト教の祝祭は、非キリスト教徒である私たちにとって、非常に興味深いものです。起源や暦の話とともに、写真などを見ながら、実際にはどのような雰囲気であるのかを、ドイツを例にして紹介します。

文学部
アジア文化専修
総合人文学科

中国を知り、日本を知る

ことばの背後にある文化的脈絡について研究しています。「蕭条」という言葉があります。「さみしい」という意味です。なぜ「蕭」にくさかんむり、「条」に「木」の字があるのでしょうか。中国で生まれたことばが日本でどのように受け入れられたのか、考えます。